

2020年度大学入試改革の最新動向を語る ー有効な対応策はあるのかー

立命館慶祥

中学校・高等学校

江川順一副校長

2020年度から新しく導入される「大学入学共通テスト」では、従来の「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が中心に評価されます。

加えて、「主体性・多様性・協働性」が問われることから、志望大学のアドミッションポリシーに基づいた、説得力ある志望理由書や詳細な活動報告書の作成が求められます。

これからの大学は、新テスト、個別学力検査、志望理由書、活動報告書、面接および小論文等を用いて、志願者の資質と意欲を総合的に評価して可否を決めることになります。

そして、大切なことは、この流れが2020年度を待たずして、難関大学入試においてすでに始まっているということです。

「2020年度大学入試改革」は、決して3年後のことではなく、実は来春の入試において直面することなのです。

講演では、長く教育行政に携わってきた立命館慶祥中学校・高等学校の副校長が、大学入試改革に係る文部科学省の動き、大手予備校の対応の状況を話題とし、その対応策を説明いたします。

参加申込みは、以下のメールアドレスへ
daigaku2020@yahoo.co.jp

日時: 2017年11月11日(土) 10:00～受付
10:30～11:30 講演会

場所: LOTUS HOTEL (Sukhumvit 33 Road) ボールルーム

EGAWA JUNICHI

江川順一



札幌南高校ほか北海道の公立高校3校の勤務を経て、北海道教育委員会の指導主事として10年間勤め、教育行政に長く携わった。その間、文部科学省の方針を受け道教委としての施策を立案したり、教育研究所において研究職を務めるなど、北海道の教育行政をリードした。

立命館慶祥には8年前に赴任し、中学主幹、高校教頭を務め、4年前から副校長として立命館慶祥の教育推進に傾注する。私立と公立の両方を熟知し、私立の優位性を最大限活かした教育を目指している。

